

# 宮古のワカメ養殖支援 県内医師ら

購入した船「ぷりぷりわかめ丸」に乗って、ワカメを収穫する漁師  
＝9日午前5時ごろ、若手県宮古市重茂



全国有数の養殖ワカメの産地で、東日本大震災で被災した若手県宮古市重茂で医療支援に当たった静岡市立静岡病院の医師らが、津波で多くの漁船を失った重茂漁協のワカメづくりを支援している。賛同者を募って漁船の購入費を集め、賛同者には特産のワカメをプレゼントする仕組み。すでに1隻の船が購入され、出漁している。

## 賛同募り 船購入 お礼は「ぷりぷりわかめ丸」

発起人は、昨年5月に被災地入りした同病院呼吸器外科の千原幸司科長。同行した同病院の医療スタッフや、県内の防災NPO「災害・医療・町づくり」所属の医師とともに「プロジェクトぷりぷりわかめ支援の会」を結成した。

重茂は、養殖ワカメの生産量が全国で最も多い若手県の中でも一番の産地。毎シーズン4千ト前後を収穫していたが、814隻あった船のほとんどが津波にさらわれ、残ったのはわずか14隻。厳しい状況でも懸命に仕事を続ける漁師の姿に触れた千原科長らは「ワカメづくりのために何かしたい」と支援に乗り出した。

昨年度は全国の賛同者約90人から80万円以上が集まり、漁協は船1隻を購入した。船名は「ぷりぷりわかめ丸」。今年のワカメ収

穫に使っている。

同漁協の高坂菊太郎参事は「船が足りず、2人で1隻に乗り込んで作業する不自由な状態。船は大活躍で大変ありがたい」と話す。

2月下旬には、賛同者に新鮮な早採りワカメが届いた。「ワカメがこんなにおいしい」と好評で、今年度はさらに支援の輪を広げるため、積極的にPRしていく。「人目を引くように」と同病院の職員らが描いたワカメのイラストを活用し、ホームページ上にはさらに支援の輪を広げるため、積極的にPRしていく。

静岡新聞 夕刊  
平成 24 年(2012 年)4 月 17 日(火曜日)掲載